しん えい

沈衛の楷書作品について

【観峰館オンライン講座】第35回 観峰館所蔵品を鑑賞しよう(9)

根來 孝明(観峰館 学芸員)2022/8/27

はじめに講座の内容

- 1. 沈衛について
- 2. 楷書作品の分析
- 3. 書風の淵源



1. 沈衛について

しんえい

沈衛 (1862~1945)

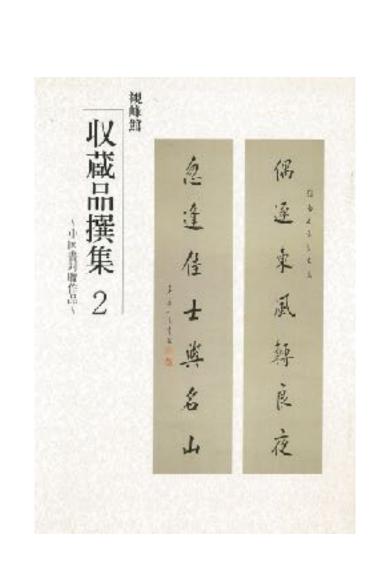
漢字部 資料紹介 2022年7月号

- ・沈衛(1862~1945)は、字友霍(ゆうかく)、号を淇泉(きせん)といい、浙江の人で、光緒16年(1890)に科挙の合格者である進士となりました。
- ・合格後は、選ばれた者しか入れない皇帝直属の秘書室ともいえる翰林院へ進んだことから、相当優秀であったことがうかがえます。
- ・沈衛は書や詩文にすぐれましたが、清朝が崩壊した後は、上海で書を売って生活したそうです。

~ 牆曾役人笠一向到舊姜香細 亥 腰作只一澤權吳家泊苦過草 善 誰 梅 裁 舸 茫 寒 松 應 江 無 石 穿 家花白歸茫耕作是南麋樵沙 玉賦紅桑雁花客不岸廉美雪 當節研作閒影今歸眠舟過人半 る吹墨春舞微夕已非尾姑臺消 整春於衫火玉不持守春蘇上吳 * 怨令少却峯登新歲風黃普宮 自看亦小宜重盤年小颭帽敦煙 在見自知禁曹百舟總客傳娱冷 簡鵝香名風護年上春燈呼今水 重黄環翰土雲草過色千睡日 追 上班墨相衣草倩入門不空追 言柳随場傳長都人燈列成臺梅 評條波十我橋如和花炬投望花 冷年未寂此雪三散篙五竹 未心諳寞自洗生林細湖裏 銷事但春琢征定鴉細殘無 古只得寒春衣是鬼激雪人 苔凄明夜詞沙陸女流未見 留凉年只剪尾天相冰融一 雪舊少有燭風隨思分青夜 卧時行詩看廻又未明料吹

沈衛《楷書十二言対聯》 中華民国10年(1921)

- 司馬遷(前145?~前86?)の『史記』 「張耳・陳余列伝」の一説と、宋の劉義慶 (403~444) が著した『世説新語』から 引用した文を書いた対聯。
- 『収蔵品撰集2~中国書対聯作品~』 (観峰館、2008年) 掲載



牀 頭

莫

歸 看 来 官 聞 貝 好 在 葉 語 牢 初三 籠 七 差 祁刀 佛 遣 四亦 夜 欣 留三 星 纵 四 白甫同年属弟光術 车 奉 題 天 詩 呼此 日

書 氣 官 無 受 惠 昌 秀 泽 9 榜 色 .. 事 三大 1. 業 1 喜 沈 AK 衛 此就 渊 於 安

褚 东 楊 於辞 當 骨 少 師 及 茶好 尚有 石 徐 大哥邊家 琴 縣 沈 傳 子 以来 師 看書鶴 翰 墨 蘇 棠 於 多 馬沈 子 掃 氣 衛夢 破 楯 姬 顏尚書 於 頹楊 歐虞

2. 楷書作品の分析

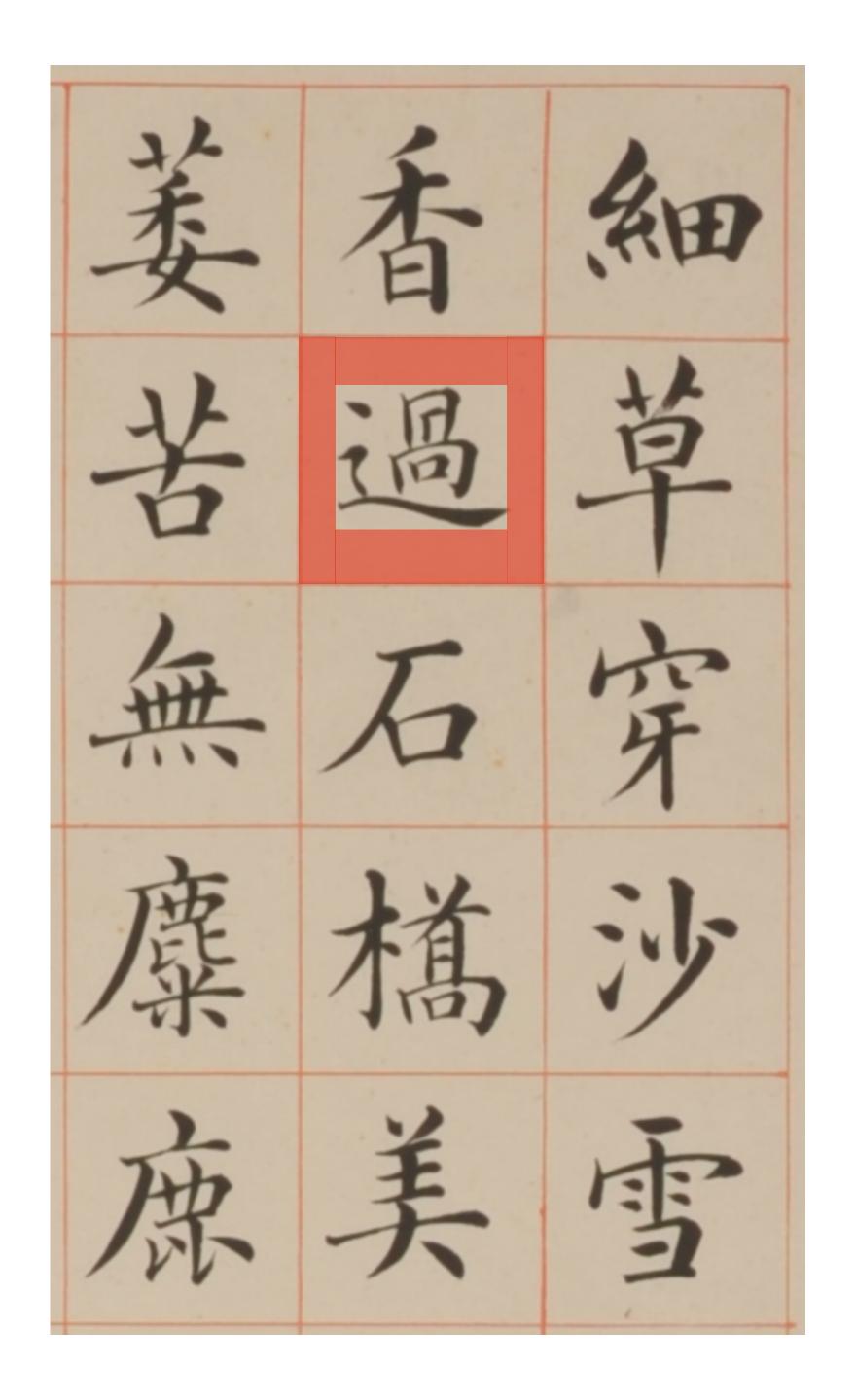
しんえい

沈衛 (1862~1945) 漢字部 資料紹介 2022年7月号

・清時代末期の沈衛(1862~1945)が、南宋の詩人である姜夔(1155~1221)の詩を書いた作品。

恐牆曾役人笠一向到舊菱香細 京 腰作只一澤權吳家泊苦過草 誰梅裁舸茫寒松應江無石穿 家花白歸茫耕作是南麋樵沙 玉賦紀桑雁花客不岸廉美雪 笛研作間影今歸眠舟過人半 之吹墨春籍微夕已非尾姑臺消 恭春於衫火玉不持守春蘇上吳 怨令少却峯登新歲風黃音宮 看亦小宜重盤年小颭帽數煙 見自知監魯百舟總客傳娛冷 簡鵝香名風護年上春燈呼今水 黄環翰土雲草過色千睡日追 上块墨相衣草倩入門不空追 柳随場傳長都人燈列成臺梅 解條波十我橋如和花炬投望花 冷年未寂此雪三散篙五竹 未心諳寞自洗生林細湖裏 銷事但春琢征定鴉細殘無 古只得寒春衣是鬼激雪人 苔凄明夜詞沙陸女流未見 留凉年只剪尾天相冰融一 雪舊少有燭風隨思分青夜 卧時行詩看廻又未明料吹 ・ 「罫線におさまる文字の配置」

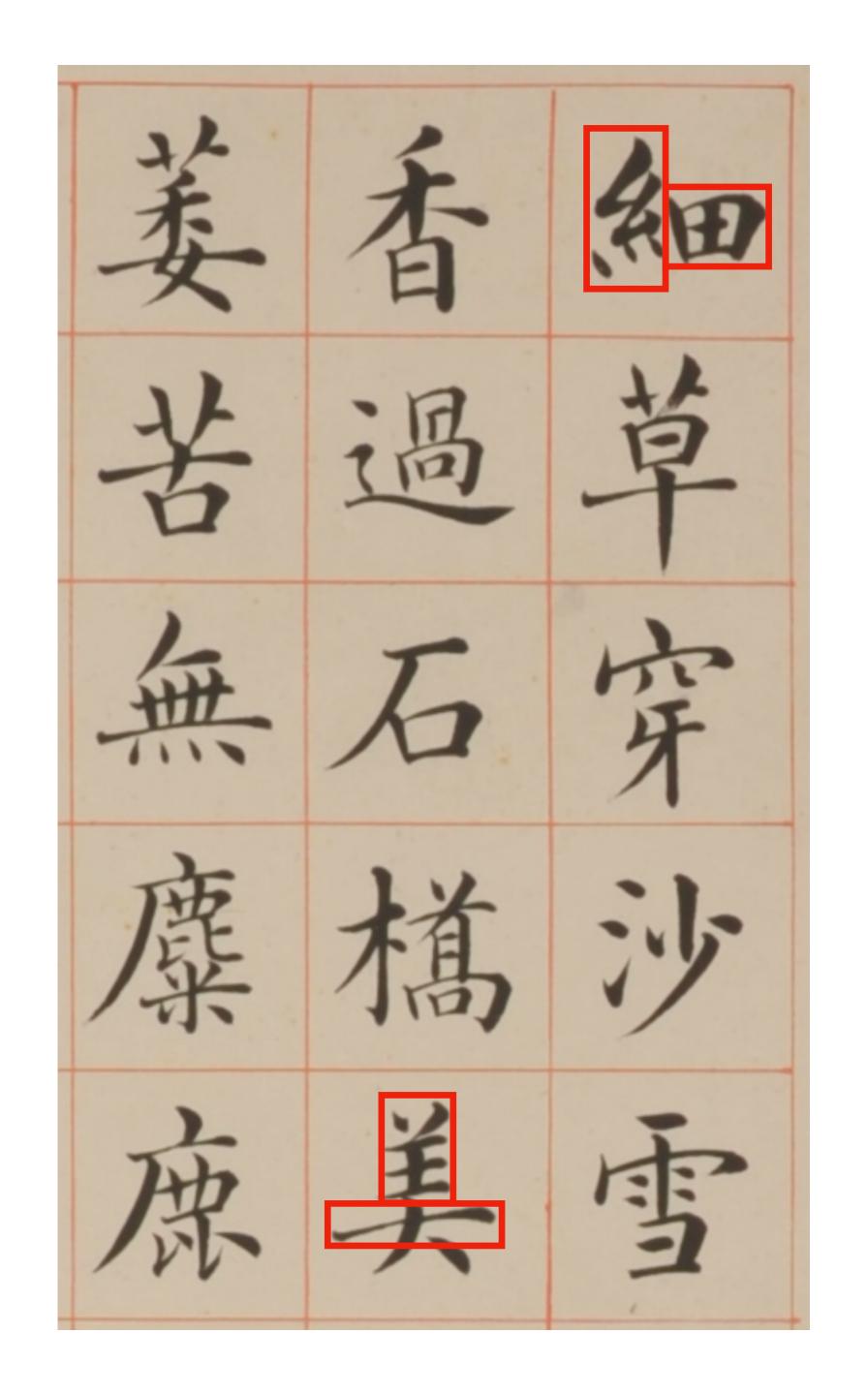
・多くの文字について、文字の周囲に一定の 余白がある(罫線の中いっぱいに書いて いない)。



・「バランスの良い字形」

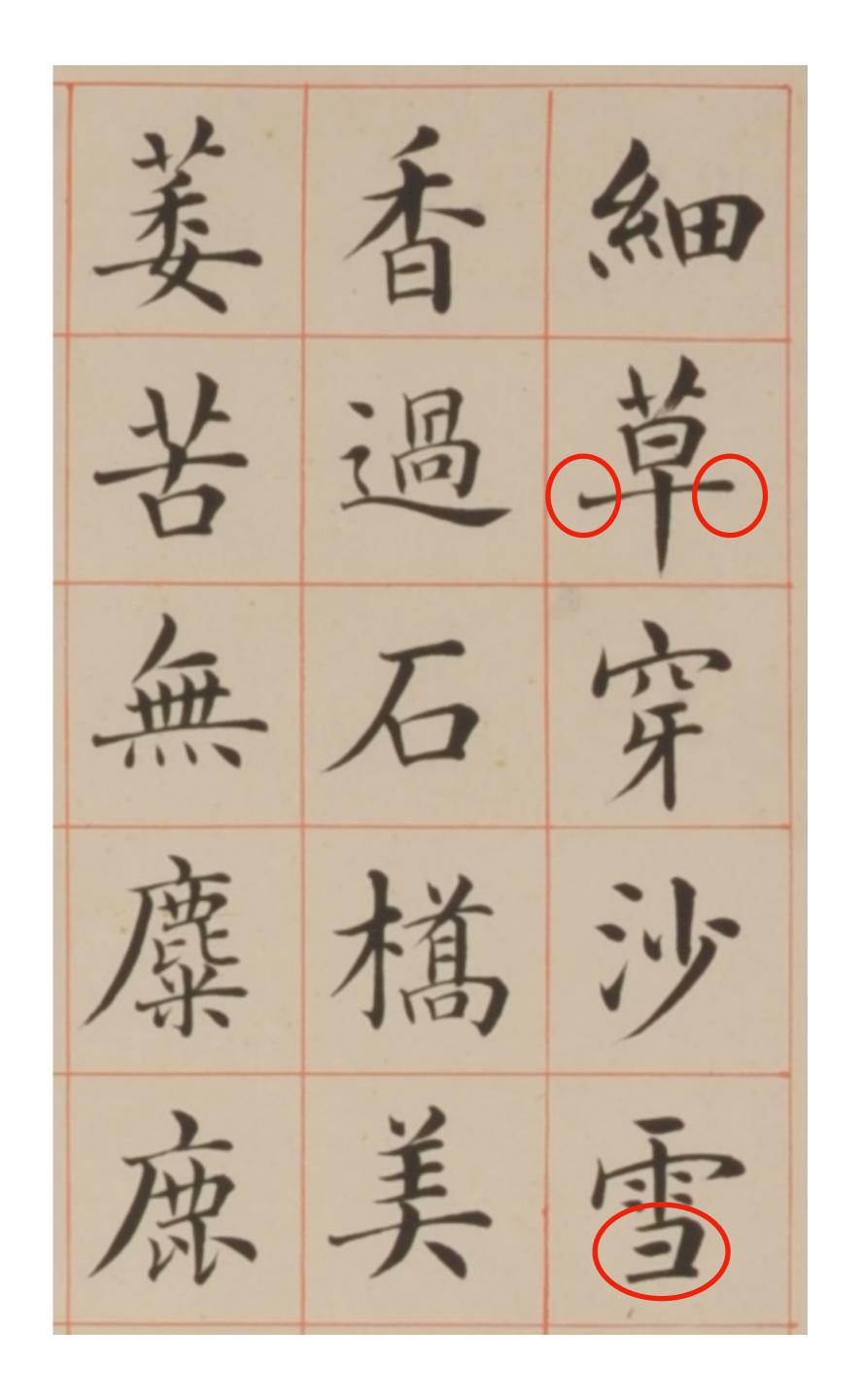
高/低、長/短、大/小などの 釣り合いがとれている

- Balance :
- ・天秤(てんびん)、はかり、天秤座、釣り合い、平均、均衡、調和、均整(美)、(心の) 平静、落ち着き
- ・平衡[釣り合い]を保たせる、平均させる。
- ・釣り合わせる。



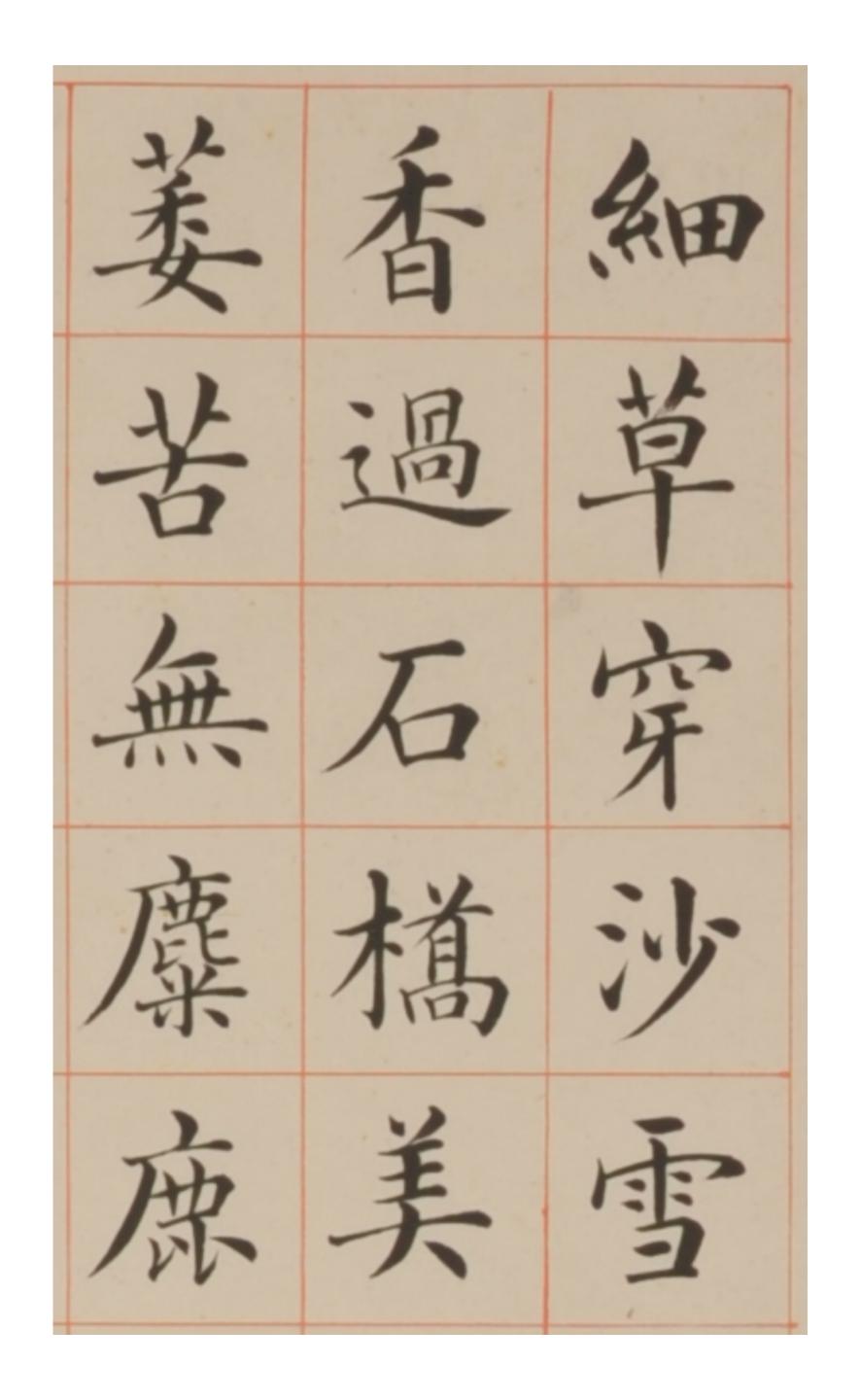
・「肥痩のある線」

- ・起筆/収筆でやや太くなる。
- ・ 横画より縦画がや大くなる。



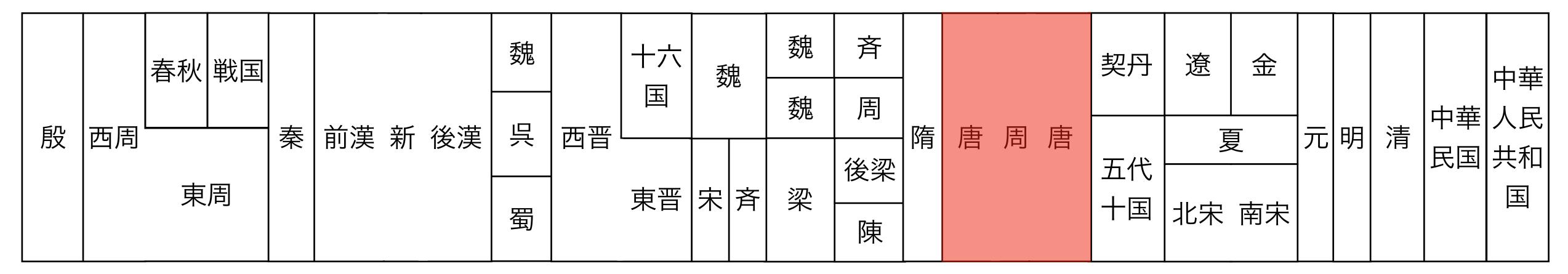
- ・ 「罫線におさまる文字の配置」
- ・「バランスの良い字形」
- ・「肥痩のある線」

どの時代の、どの作家の書風がもとになっているのか=書風の淵源は?



3. 書風の淵源

唐 (618~907)



- ・中国の統一王朝。李唐とも。隋末の乱に李淵(高祖)・李世民 (太宗)父子が挙兵して、煬帝(ようだい)の孫・恭帝の禅譲(中 国で帝王がその位を子孫へ伝えないで有徳者に譲ること)を受け、 618年に建国。
- 国威は周辺に広がり世界帝国の偉容を誇った。

褚遂良

沈衛

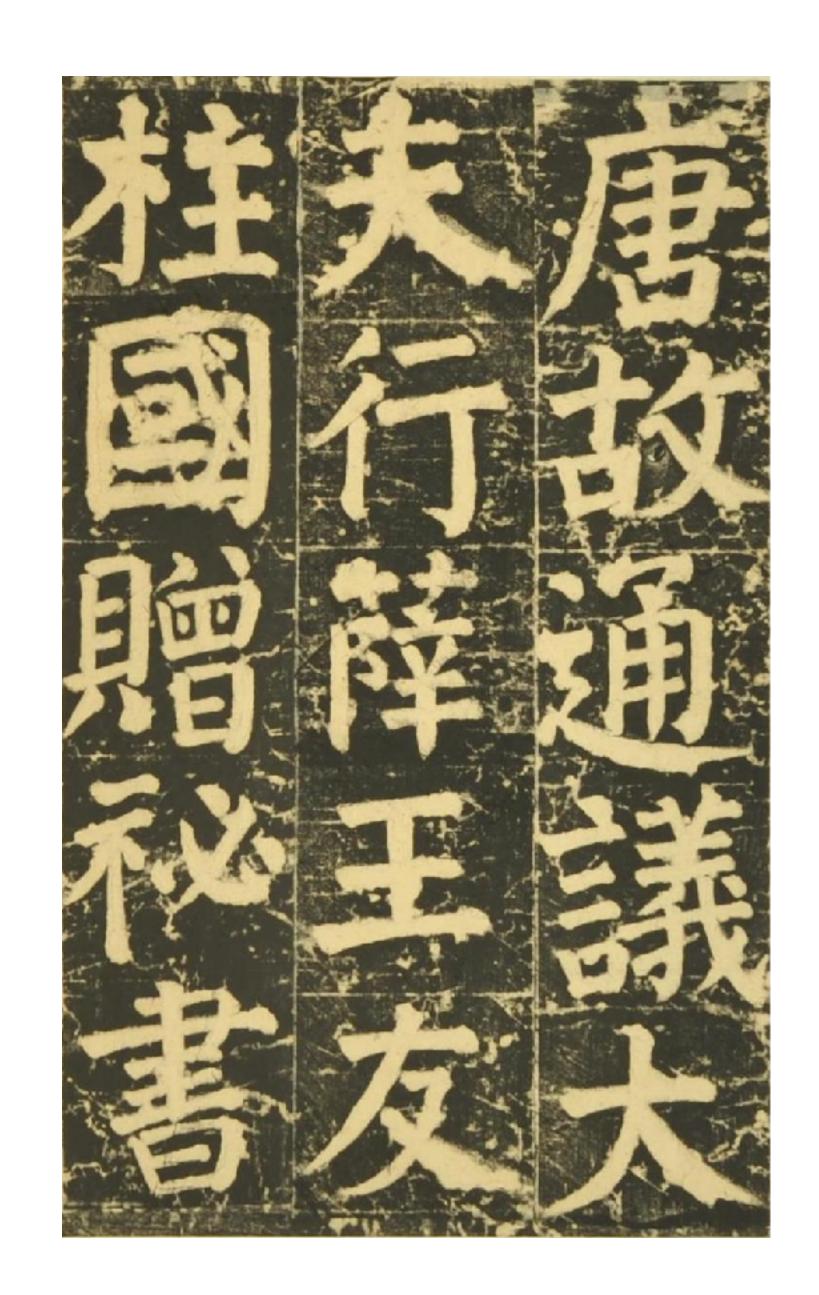




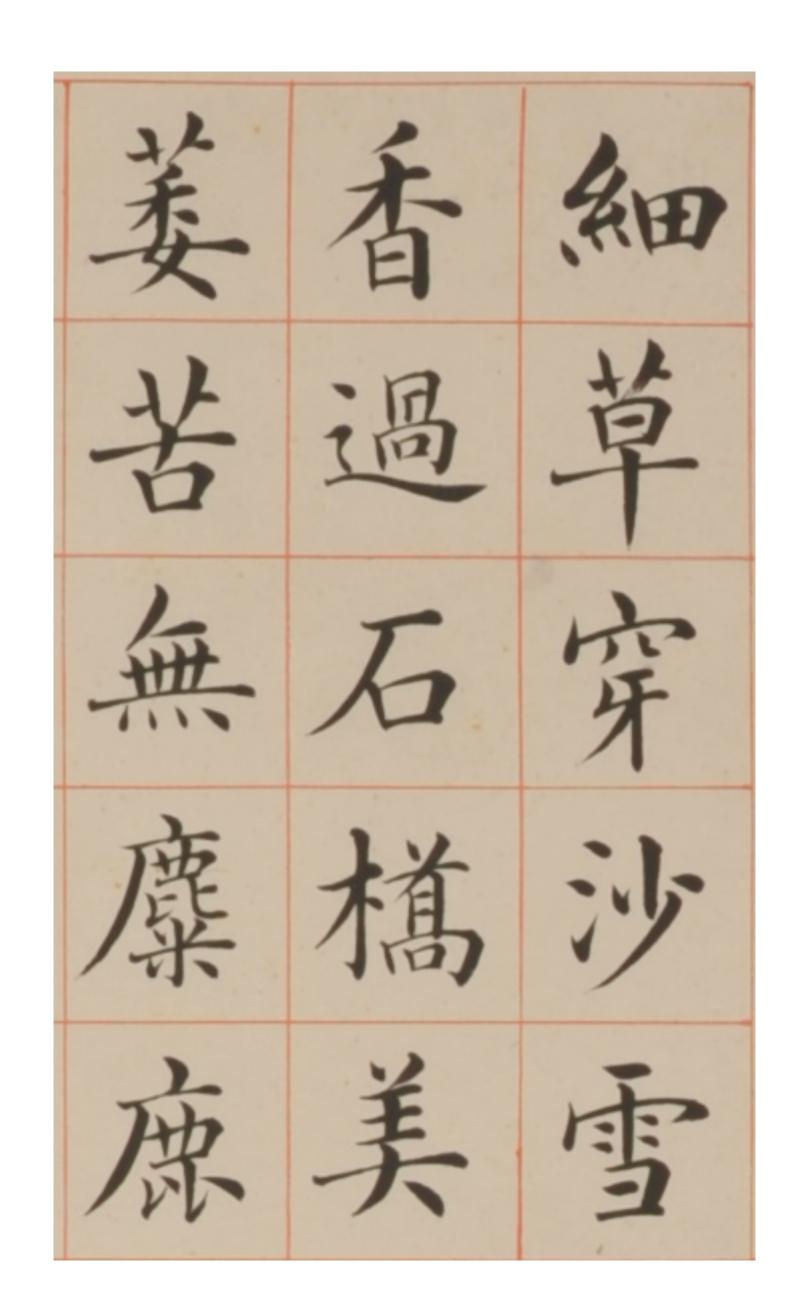


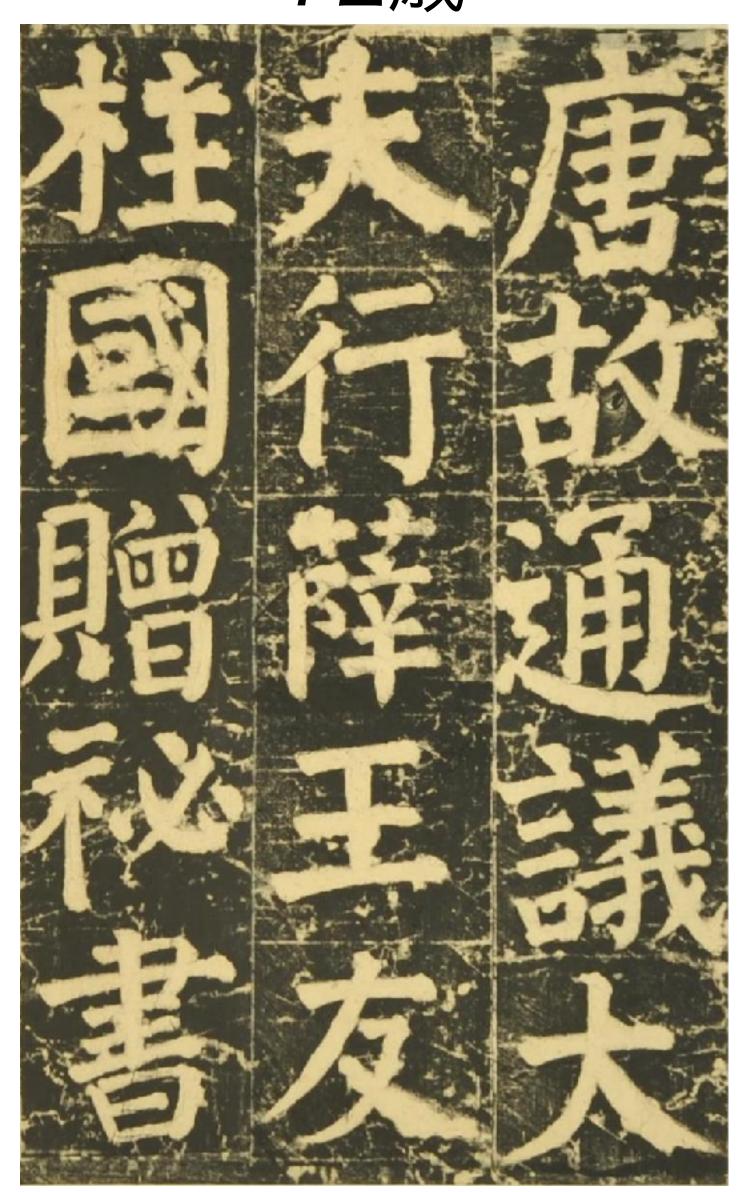


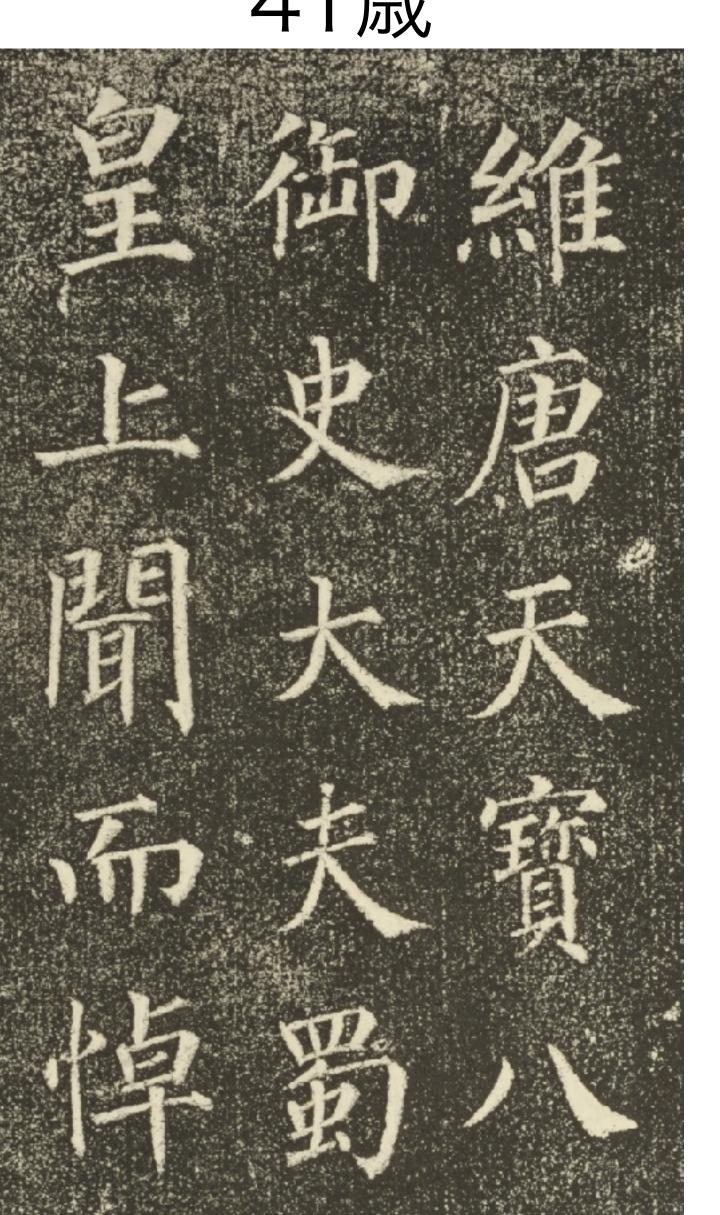
起筆で筆先を引っ掛ける



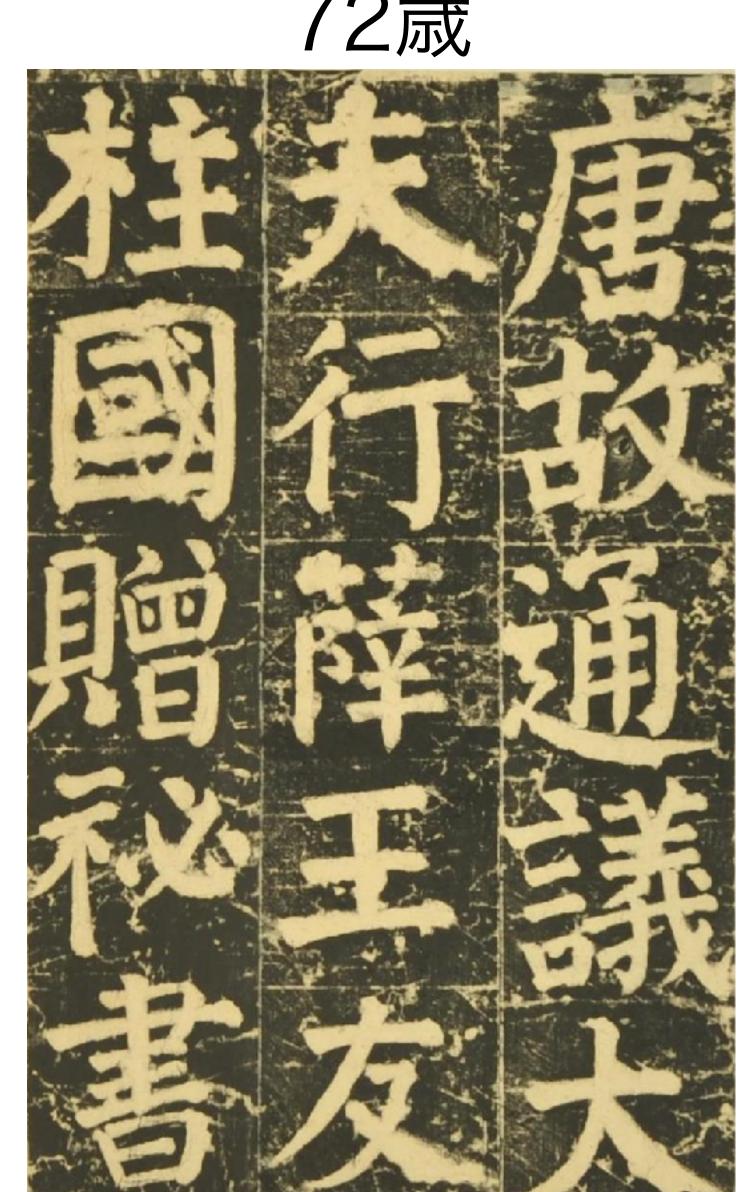
顔真卿とは あまり似ていない?

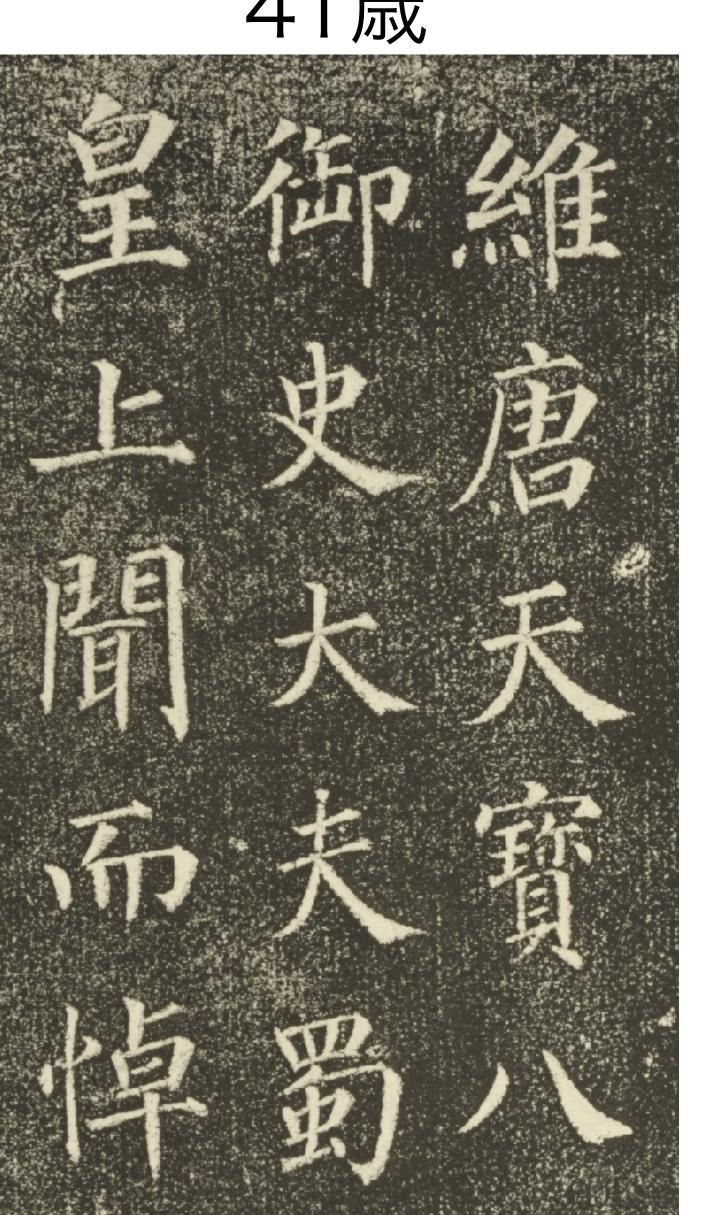






娄	杏	AH
苦	過	节
無	F	安
糜	植	シ
庶	美	雪





しんえい かいしょきょうきじょやじせきこきちょうけいしじく

沈衛《楷書姜夔除夜自石湖帰苕溪詩軸》中華民国12年(1923)

- ・清時代末期の沈衛(1862~1945)が、 南宋の詩人である姜夔(1155~1221) の詩を書いた作品。
- ・ 唐の四大家に倣(なら)う書法。

複数の書風(書家のスタイル) に倣う(融合させた)作例

恐牆曾役人笠一向到舊菱香細 · 腰作只一澤權吳家泊苦過草 其誰梅裁舸茫寒松應江無石穿 家花白歸茫耕作是南麋樵沙 玉賦紀桑雁花客不岸原美雪 笛研作問影今歸賊舟過人半 高吹墨春舞微夕已非尾姑臺消 縣春於衫火玉不挤守春蘇上吳 怨令少却拳登新歲風黃普宮 自看亦小宜重盤年小魁帽教煙 見自知監魯百舟總客傳娱冷 觸傷香名風護年上春燈呼今水 黄環翰土雲草過色千睡日追 上块墨相衣草倩入門不空追 柳随場傳長都人燈列成臺梅 條波十我橋如和花炬投望花 冷年未寂此雪三散篙五竹 未心語宴自洗生林細湖裏 銷事但春琢征定鴉細殘無 古只得寒春衣是鬼激雪人 苔凄明夜詞沙陸女流未見 留凉年只翦尾天相冰融一 雪舊少有燭風随思分青夜 卧時行詩看廻又未明性吹

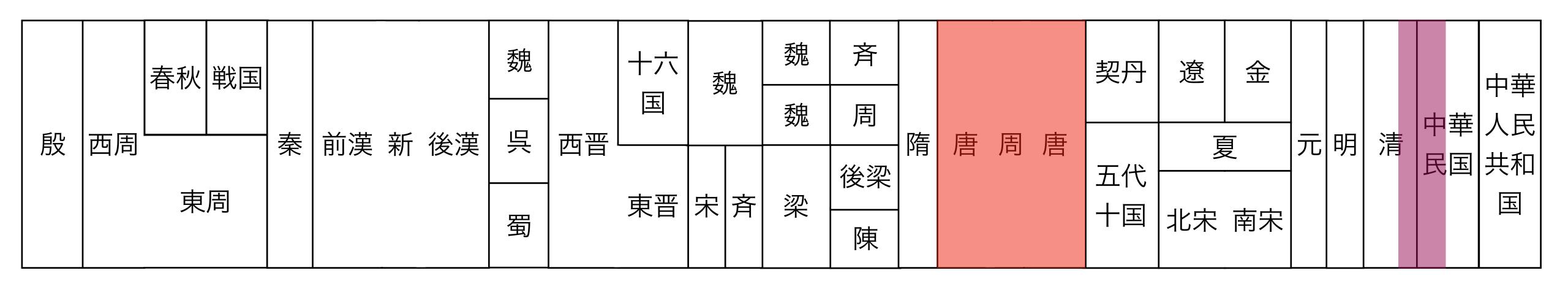
沈衛《楷書姜夔除夜自石湖帰苕溪詩軸》中華民国12年(1923)

おわりに

おわりに講座の内容

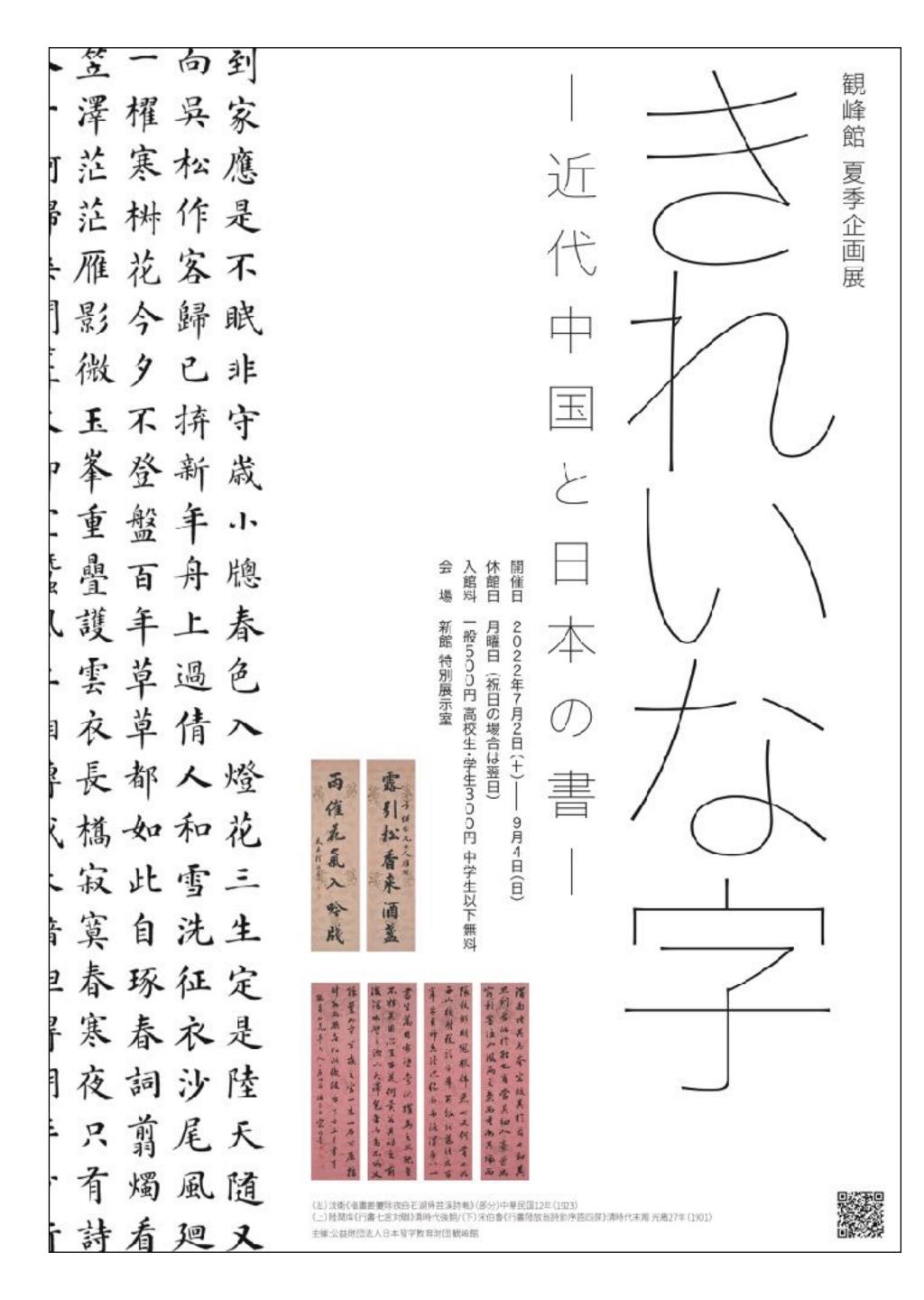
- 1. 沈衛について
- 2. 楷書作品の分析
- 3. 書風の淵源





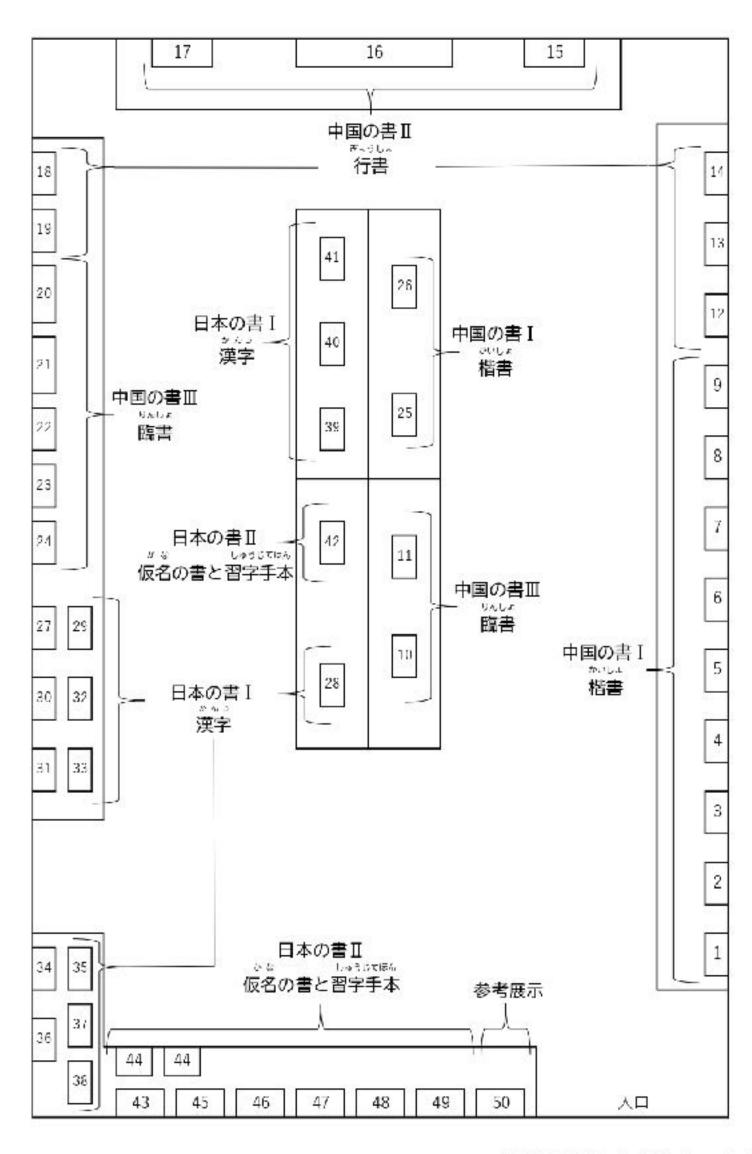
・ 唐の四大家

・沈衛 (1862~1945) の生きた時代



捺守 登新 歳 般四 手小 宜重 魁帽 百 草 温 盆 日 人燈列成 橋如和花炬投望 寂此雪三散篙 球体上生林岭原理 2022年1月2日 特别展示

展示室内のご案内



※番号は展示リストと対応しております。

